

第 7 回クルーズ振興部会 記念講演会

日時：平成 23年 2月 15日 (火) 15: 45~ 16: 30

演題：「客船誘致と広域観光連携について」

講師：釧路市阿寒町行政センター 次長 塩 博文 氏

出席者：28名



< 講演要旨 >

本日の配付資料を拝見したが、前回の JTB 北海道加藤様の講演会では、「お客様に何を楽しんでもらうか」をテーマに話されていた。「客船誘致と広域観光連携」は、まさにこのことに尽きると考える。

釧路港開港 100 年の時に作ったロゴマークに「知らない音色に出会いたい」とのキャッチコピーがあったが、クルーズこそ「知らない音色」ではないか。

現在、釧路湿原・阿寒・摩周観光圏の業務を担っているが、観光圏のコンセプトは 広域的情報化 国際化の推進 着地型旅行商品の販促体制の 3 つ。

聞き慣れない「着地型旅行商品」だが、地域の良さは地元の人が一番知っているため、魅力的な観光資源、そこでしか体験できないものを観光圏としてプロデュースしようとするもの。近々、観光圏として 3 種の旅行業の登録を予定している。

「通天閣」は現地ガイドにより魅力づけし、地域に財が落ちている。何を楽しんでもらうか、ここでしかできないものは何か、付加価値を含め、皆さんと考えていきたい。

アイヌ文化では国内初となる「アイヌシアター」が 2012年に完成する。アイヌ文化の継承、観光振興、国内外の人的交流が狙い。アイヌ民族は外との交流で栄えてきた。

阿寒湖の「マリモ」は特別天然記念物の指定から、来年、日本人の還暦に当たる 60周年を迎え、「マリモ」と「タンチョウ」を売りに観光圏では特別プログラムを用意する。



タンチョウは全世界で 3000羽しかいないが、東北海道に 1500羽、残りが中国と北朝鮮に生息している。イギリス等のバードウォッチャーは最後の最後にタンチョウと大鷲を見るためこの地（東北海道）へ足を運ぶ。

これまでも国内外のネーチャークルーズが魅力的な地域として来航している。（弱点としては北方領土海域）

阿寒湖温泉としてはネタ作り中だが、明治末期から人のコントロールによって保存されてきた「阿寒の森／前田一歩園」がある。完全クローズだったが、2年前からガイド付きで入林ツアーができるようになった。千年の木（命）と1年目の木（命）を体験できる。

阿寒湖ではモーターボートのクルーズにより、「マリモ」の見せ方を工夫・検討している。屋形船によるマリモ観察のネーチャークルーズでは、マリモの解説を行っている。

マリモは最大30センチで崩壊し、また再生する。世界中のマリモの殆どは糸くずで、30センチ級の球形マリモは世界で阿寒湖だけに生息している「オンリーワン」の観光資源。

1週間に一度マリモ水槽の清掃の日がある。天然記念物のマリモに触れることも可能で、モニターツアーによる清掃体験もプログラム化したい。

もう一つの売りの「タンチョウ」関連では、国際鶴センターで結婚식을イベントとしてやっている。

全国の「つる銘柄の酒」は130種類位ある。地酒では福司の「千羽鶴」。色々仕掛けてウエルカムできないか。

釧路湿原展望台では、台湾の運動靴メーカーのインセンティブ旅行で湿原のウォーキングを行った。コースは 3キロ～ 6キロ（1キロのコースもある）。ディスティネーション側が工夫し、スタンプの押印を行った。

トウモロコシ、カボチャ、阿寒ポーク、地元のミルクを「赤いベレー」で食し、ウォーキングして、解説付きで動物園を見る、と言うのもプランとして良いのではないか。

阿寒湖ではウエルカム・パフォーマンスとして、「1000本たいまつ」の受けが良かった。

過去に釧路港を出発港としたネーチャークルーズがあったが、乗船客は 2 日前にきて宿泊していくなど、経済効果は大きかった。

関東圏からは釧路と函館が使い勝手の良い港と言われているので期待したい。「非誠勿擾」（フェイチェンウーラオ）でも船で次の場所に行くのが「締め」となっているので、フライ&クルーズを誘致し、海外（台湾）からのお客さんに期待したい。

クルーズ客船の「にっぽん丸」の乗船客は平均 65 歳であり、いわゆる「かに族」の年代。アクティブシニアをターゲットとした観光素材の提供をすべき。

最後になるが、経済効果の大きいのは「周遊観光」「温泉」「観光交流」の 3 つ。この地域は自然、タンチョウ、啄木、花など色々あるので、写真撮影をテーマに工夫したい。

観光ガイドの層も厚くなってきている。クルーズ客船の船内で地元ゆかりの名物講師等による写真講座を行い、釧路港到着後、アテンドサービスでこの地域ならではのものを撮影していただき、コンテストまでできればおもしろい。

2012 年がメモリアルな年となり、この地ならではのプロモーションができればよい。客の希望を叶える工夫と知恵が必要。



来年、アイヌシアターも完成するが、ハードが出来ても云々との苦言もあり、ソフトが重要。地域では札幌の劇団による人形劇を具体化しているところ。

受け皿となるコンテンツを充実させ、客船誘致につなげたい。

以 上